

力物乃内中

冲繩縣上清國福州上ノ間敷  
在スル無人島ノ國標建設ノ  
儀ノ付冲繩縣ヲ指令ノ件  
右仍回覽可也  
明治十八年三月ノ

内閣書記官長



|      |        |   |
|------|--------|---|
| 太政大臣 | 爵三條實美  | 殿 |
| 左大臣  | 熾仁親王   | 殿 |
| 参議   | 伯爵大木喬任 | 殿 |
| 参議   | 伯爵伊藤博文 | 殿 |
| 参議   | 伯爵山縣有朋 | 殿 |
| 参議   | 伯爵西郷從道 | 殿 |
| 参議   | 伯爵川村純義 | 殿 |
| 参議   | 伯爵井上馨  | 殿 |
| 参議   | 伯爵山田顯義 | 殿 |
| 参議   | 伯爵松方正義 | 殿 |
| 参議   | 伯爵大山巖  | 殿 |
| 参議   | 子爵福岡孝弟 | 殿 |
| 参議   | 伯爵佐永高行 | 殿 |

一、以同類爲同然。然至急同之。而計其本  
 十有二子。天下之大萬一不暗合者。則其  
 知與否。雖妻兒。猶不敢言。同置於死。而  
 不知其所以然也。今年臣族之通對。亦書此  
 皆不可無入焉。漢之亡。蓋由於此。而不

魚釣島 久場島 及久米赤島 實地視察ノ御内命ヲ奉レ

去十月廿二日、本縣雇瀛船出雲、九二乘組宮古石垣入表諸島ヲ經テ、本月一日無恙同行、十等屬久苗彦、八警部補神尾直敏御用掛藤田千次巡查伊東祐一同柳田弥一郎ト共ニ帰港セリ、依而談視察ニ係ル取調概畧左ニ聞陳ス

魚釣島

十月廿九日午後第四時入表島船浮港拔錨針ヲ西北  
ニ取り進航シ翌三十日午前四時過東雲棚引テ旭未  
タ出テズ船室ハ尚黑白ヲ糸セサレ氏濤波ハ残月ノ  
爲ニ明光ヲ放ツノ際本船ノ前面數海里ノ隔ニ於テ

此島トシテ聳タルモノアリ是則チ魚釣島ナリ同ハ  
時端船ニ乗シ其西岸ニ上陸シテ周囲及内部ヲ踏査  
セント欲スレド頗ル峻段ナルヲ以テ容易ニ登ルコ  
能ハス沿岸ハ又巨巖大石縱横ニアリ且ツ往々潮水  
ノ當處ニ注キ入ルアリテ歩行自由ナラス故ニ漸ク  
其南面ノ海濱ヲ跋涉シテ全島ヲ相スルニ此島嶼之  
周囲ハ恐ク三里ヲ超ハサルヘシ而シテ内部ハ巨大ノ  
岩石ヨリ成立滿面「コバ」樹、可且、榕、藤、等大東島ノ如ク  
沖繩本島ト同種ノ雜草木ヲ以テ蔽ヒ間々溪間ヨリ  
清水流ルレド其量多クラス平原ナキヲ以テ耕地ニ  
乏シ濱海水深ニ富ムヲ認ムレド前頭ノ地勢ナルガ  
故ニ目下農漁ノ兩業ヲ営ムニ便ナラス然レド其土  
石ヲ察スルニ稍ヤ入表群島中内離島ノ組織ニ類シ

テ只石層ノ大ナルヲ覓フルノニ依是考之ハ或ハ煤炭  
又鉄鑛ヲ包含セシモノニアラサル乎若シ果シテ之  
アルニ於テハ誠ニ貴重ノ島嶼ト言ハサルヘカラス  
御参考トシテ携帶セシニ三ノ石類ニ説明ヲ附シ左  
ニ列記ス

第一

是ハ赤砂狀ノ土中ニ著シキ層ヲ成シタルモノ也

第二

是ハ渣滓狀ノ石層中至々ニ粘着セルモノ也

第三

是ハ砂ヨリ変性セシ巨大ノ石層中ニ粘着セルモノ也

第四

是ハ石花石ナリ此類最モ海濱ニ多シ各種アリ就  
中色鮮明ナルヲ撰ヒレナリ

茅五

是ハ輕石ナレハ無論火山性ノモノトス然レ氏此  
ハ他ヨリ漂着セシモノト察セラル救甚タ僅々ナ  
レハナリ

茅六

是ハ船釘ナリ何時カ船舶ノ漂流シテ木材ハ既ニ  
朽チ釘ノミ残リタルモノト見ヘ今ハ酸化シテ海  
濱ノ岩石ニ凝結ス其數甚タ多シ亦怪ムヘシ  
該島ハ本邦ト清國トノ間ニ散在セルヲ以テ所謂日  
本文那海ノ航路ナリ故ニ今モ各種ノ漂流物アリ則  
チ小官等ノ目撃セシ物ハ或ハ琉球船ト覺シキ船板

帆檣或ハ竹木或ハ海綿漁具

竹ニテ製シタル  
浮標ノモノヲ云フ

等是ナリ就中

最モ目新ク感シタルハ長貳間半許幅四尺許ノ傳馬  
船ノ漂着セシモノナリ形甚タ奇ニシテ曾テ見聞セ  
サルモノナレハ之ヲ出雲丸乗組人ニ問フニ曰ク支  
那ノ通船ナリト答ヘリ

島地素ヨリ人蹟無之樹木ハ前陳ノ如ク繁茂ナレバ

大木ハ更ニナレ野禽ニハ鴉、鷹、

白露ノ候ナレハ本島ト  
同レク渡リタルモノト見ユ

鶯、鶇、鷺、目白、

鳩等ニシテ海禽ノ最モ多キハ信天翁トス此島魚釣

島ノ西南濱少ク白砂ヲ吹寄セタル溪間ニ至ルノ間

地色ヲ見カルマテニ群集ス實ニ數萬ヲ以テ算スヘ

ク而シテ皆砂或ハ草葉ヲ集メテ巢トナシ雌ハ卵ヲ

抱キ雄ハ之ヲ保護シ又養フカ如シ此島和訓アホウ

ドリ又トウクロウ又バカドリ等ノ名アリ素ヨリ無

人島ニ棲息セルヲ以テ曾テ人ヲ恐レスハ官等共ニ  
語テ曰ク人ヲ恐レサレハ宜ク生捕トナスヘシト各  
先ヲ争フテ進ミ其頸ヲ握ルオタ容易ナリ或ハ両手  
ニ攫シ或ハ翅ヲ結テ是ヲ縛スルアリ或ハ右手ニ三  
羽左手ニ二羽ヲ攫テ以テ揚々得色或ハ卵ヲ拾フ等  
各自思々ニ生捕或ハ撲殺射殺拾卵等我ヲ忘レテ為  
セトモ更ニ飛去スルヲサケレハ暫時數十羽數百卵  
ヲ得タリ則チ携帶シ以テ高覽ニ供セシモノ是ナリ  
此鳥海禽中最モ大ナルモノニシテ量大凡拾斤ニ内  
外ス嗅氣アレハ肉ハ食料ニ適スト云今書ニ就キ調  
フルニ *Diomedea* 属ニシテ英語ノ *Albatross* ト称スル  
モノナルヘシ蝙蝠ノ大ナル者ハ大東島等ニ均ク棲  
息スト想像スレハ獸類ハ別ニ居ラサルヘシ

此島ハ曩ニ大城永保ニ就キ取調今実地踏査ノ上猶  
英國出板ノ日本台湾間ノ海圖ニ照スニ彼 *Mica pin au*  
ナル者ニ相当ル而シテ入表群島中外離島西端ヨリ  
ハ拾三海里トス故ニ台湾ノ東北端ヲ去ル大凡百海  
里餘東沙島ヲ東ニ去ル大凡貳百拾四海里餘ナルハ  
シ其 *Mica pin au* ヲ以テ久米赤島ニ当テタルハ全ク誤  
ニテ久米赤島ハ *Palmyra Atoll* ニ当リ一礁ナルノミ *Pinnacle*  
ヲ以テ久場島ニ当タルモ亦誤ニテ *Pinnacle* ナル  
語ハ項ト言フ義ニシテ魚釣群島中六礁ノ最モ此立  
セシヲ言フモノナリ依而彼是其誤ヲ正サンニ魚釣  
島ハ *Mica pin au* 久場島ハ *Mica pin au* 久米赤島ハ *Palmyra Atoll*  
ナルヘシ

余ハ石垣島ヨリ鵜売番ヲ携帶シテ魚釣島ニ放チ以

ヲ將來ノ繁殖否ヲ試ム復他日ノ證ヲ残サント欲ス  
ルノミ

久場島 附久米赤島

同日午後二時魚釣島ヲ謝シ久場島ニ向テ進航暫ク  
シテ其沿岸ニ接ス本島ハ魚釣島ノ東北十六海里ヲ  
隔テアリ先ツ上陸踏査セント欲スレド惜ラクハ日  
ハ西山ニ落ントシ時恰モ東北ノ風ヲ起シ倍々強大  
ナラントス素ヨリ港灣ハナシ風ヲ避クルヲ能ハス  
隨而端艇ヲ下ストヲ得ス乍遺憾傍觀ニ止ム依テ先  
其形狀ヲ言ハンニ山ハ魚釣島ヨリ卑ケレド同シク  
巨巖大石ヨリ成立タル島ニシテ禽類樹木モ異ナル  
ヲナレト認ラルニナリ然レド少クボナルヲ以テ周圍  
恐ク二里ニ滿タサルヘシ是ヨリ帰路久米赤島ヲ見

シテラ船長ニ約シ進航セシニ風ハ愈々強キヲ加ヘ  
夜ハ暗黒ニシテ終ニ瞭然見ルヲ能ハナリシハ甚タ  
遺憾トス然レド久米赤島ハ到底洋中ノ一礁ニ過キ  
サレハ農漁業ヲ營ミ或ハ將來植民等ヲ為スノ愈ハ  
無カルヘシ幸ニ自今後先島航海ノ途次穩波ノ節実  
地ノ目撃ヲ期スルニアル耳

以上我沖綏近海ニシテ古來其在ヲ見認テ未タ航海  
ヲ為サス他日植民スヘキヤ否ノ考按ヲ貯テ今日ニ  
及ビシ島嶼ハ先般踏査ヲ了セシ南北大東島ト共ニ  
五トス故ニ遠略ノ御計畫ハ先ツ右ニテ一段落ニ似  
タリト虽モ海軍水路局第十七号ノ海圖ニ採レハ宮  
古島ノ南方大凡廿海里ヲ隔テ・イキマ島ト称シ長  
サ凡五海里幅ニ海里位ニテハ重山ノ小濱島ニ近キモ

ノヲ載セテ曰ク「イビ」氏ハ此島ノ探索ニカヲ尽セシ  
ガ遂ニ見得サリレト云フ「ト」アリ又英國出版ノ日本  
台灣間ノ海圖ニモ *Skima* (Daultful) ト記シ以テ其有  
無疑ノ間ニ置ケリ而シテ今回八重山島ニ到リ土人  
ノ言フ所ニ據レハ往昔波照間島ノ一村民舉テ其南  
方ノ一島嶼ニ移轉セリト其有無判然セサレト云フ  
之ヲ南波照間島ト称シテ其子孫ノ連綿タル事ヲ信  
シテ疑ハスト云フ以上ノ二島ハ他日御探求可相成可  
然哉ニ奉存候

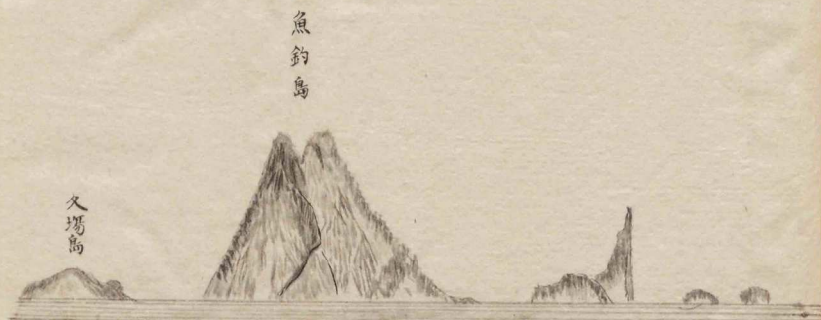
古今回御内命ニ據リ魚釣島外ニ島実地踏査ノ概略  
並ニ見取略圖相添謹而奉復命候頓首再拜

明治十八年十一月四日

沖繩縣五等属石澤兵吾

沖繩縣令西村捨三殿代理

沖繩縣大書記官森長義殿



魚釣島、  
南西岸  
十五海里  
、地ヨリ  
遠望ノ  
圖

中略今西味餘三類乃野

惟與經大書於首終身嘉誠

魚釣嶋外二嶋巡視取調概略

魚釣嶋久場嶋及久米赤島実地視察ノ御内命ヲ奉シ  
去十月二十二日本県雇汽船出雲丸ニ乗組宮古石垣入  
表諸島ヲ経テ本月一日無恙同行ノ十等属久留彦八  
警部補神尾直敏御用掛藤田千次巡查伊東祐一同柳  
田弥一郎ト共ニ帰港セリ依而該視察ニ係ル取調概  
略左ニ開陳ス

魚釣嶋

十月二十九日午後第四時入表島船浮港拔錨針ヲ西北  
ニ取り進航シ翌三十日午前四時過東雲棚引テ旭未  
タ出テズ船室ハ尚黒白ヲ弁セサレトモ涛波ハ残月ノ  
為ニ明光ヲ放ツノ際本船ノ前面数海里ノ隔ニ於テ  
屹焉トシテ聳タルモノアリ是則チ魚釣嶋ナリ同八  
時端船ニ乗シ其西岸ニ上陸シテ周囲及内部ヲ踏査  
セント欲スレドモ頗ル峻阪ナルヲ以テ容易ニ登ルコト  
能ハス沿岸ハ又巨巖大石縦横ニアリ且ツ往々潮水  
ノ崑崙ニ注ギ入ルアリテ歩行自由ナラス故ニ漸ク  
其南西ノ海浜ヲ跋涉シテ全島ヲ相スルニ此島嶼之  
周回ハ恐ク三里ヲ越ヘサルヘシ而シテ内部ハ巨大ノ  
岩石ヨリ成立満面「コバ」樹、可旦、榕、藤、等大東島ノ如ク  
沖縄本島ト同種ノ雜草木ヲ以テ蔽ヒ間々溪間ヨリ  
清水流ルレドモ其量多カラス平原ナキヲ以テ耕地ニ  
乏シ浜海水族ニ富ムヲ認ムレドモ前頭ノ地勢ナルガ  
故ニ目下農漁ノ両業ヲ営ムニ便ナラス然レドモ其土  
石ヲ察スルニ稍ヤ入表群島中内離島ノ組織ニ類シ  
テ只石層ノ大ナルヲ覺フルノミ依是考之ハ或ハ煤炭  
又鉄鉱ヲ包含セシモノニアラサル乎若シ果シテ之  
アルニ於テハ誠ニ貴重ノ島嶼ト言ハサルヘカラス  
御参考トシテ携帯セシ二三ノ石類ニ説明ヲ附シ左  
ニ列記ス

第一

是ハ赤砂状ノ土中ニ著シキ層ヲ生シタルモノ也  
第二

是ハ渣沢状ノ石層中所々ニ粘着セルモノ也

第三

是ハ砂ヨリ変性セシ巨大ノ石層中ニ粘着セルモノ也

第四

是ハ石花石ナリ此類最モ海浜ニ多シ、各種アリ就中色鮮明ナルヲ撰ヒシナリ

第五

是ハ軽石ナレハ無論火山性ノモノトス然レドモ此ハ他ヨリ漂着セシモノト察セラル数甚タ僅々ナレハナリ

第六

是ハ舩釘ナリ何時カ舩舶ノ漂流シテ木材ハ既ニ朽チ釘ノミ残リタルモノト見ヘ今ハ酸化シテ海浜ノ岩石ニ凝結ス其数甚タ多シ亦怪ムヘシ

該島ハ本邦ト清国トノ間ニ散在セルヲ以テ所謂日本支那海ノ航路ナリ故ニ今モ各種ノ漂流物アリ則チ小官等ノ目撃セシ物ハ或ハ琉球舩ト覺シキ舩板帆檣或ハ竹木或ハ海綿漁具（竹ニテ製シタル浮様ノモノヲ云フ）等はナリ就中

最モ目新シク感シタルハ長二間半許幅四尺許ノ伝馬

舩ノ漂着セシモノナリ形甚タ奇ニシテ曾テ見聞セ

サルモノナレハ之ヲ出雲丸乗組人ニ問フニ曰ク支

那ノ通舩ナリト答ヘリ

島地素ヨリ人跡無之樹木ハ前陳ノ如ク繁茂ナレドモ

大木ハ更ニナシ野禽ニハ鴉、鷹、（白露ノ候ナレハ本島ト同シク渡リタルモノト見ユ）鶯、

鶉、目白、

鳩等ニシテ海禽ノ最モ多キハ信天翁トス此鳥魚釣

島ノ西南浜少ク白砂ヲ吹寄セタル溪間ニ至ルノ間

地色ヲ見サルマテニ群集ス実ニ数万ヲ以テ算スヘ

ク而シテ皆砂或ハ草葉ヲ集メテ巢トナシ雌ハ卵ヲ

抱キ雄ハ之ヲ保護シ又養フカ如シ此鳥和訓アホウ

ドリ又トウクロウ又バカドリ等ノ名アリ素ヨリ無

人島ニ棲息セルヲ以テ曾テ人ヲ恐レス小官等共ニ

語テ曰ク人ヲ恐レサレハ宜ク生捕トナスヘシト各

先ヲ争フテ進ミ其頸ヲ握ル太タ容易ナリ或ハ両手

ニ攫ミ或ハ翅ヲ結テ足ヲ縛スルアリ或ハ右手ニ三羽左手ニ二羽ヲ攫ヲ以テ掲々得色或ハ卵ヲ拾フ等各自思々ニ生捕或ハ撲殺射殺拾卵等我ヲ忘レテ為セトモ更ニ飛去スルコトナケレハ暫時数十羽数百卵ヲ得タリ則チ携帯シ以テ高覧ニ供セシモノ是ナリ此鳥海禽中最モ大ナルモノニシテ量大凡拾斤二内外ス嗅氣アレドモ肉ハ食料ニ適スト云今書ニ就キ調

フルニ ダイラメデア *Diomedea* 属ニシテ英語ノ アルバトロス *Albatross* ト称スル

モノナルヘシ蝙蝠ノ大ナル者ハ大東島等ニ均ク棲息スト想像スレドモ獸類ハ別ニ居ラザルヘシ此島ハ曩ニ大城永保ニ就キ取調今実地踏査ノ上猶

英国出版ノ日本台湾間ノ海図ニ照ラスニ彼ノ ホアピンシュ *Hoa pin su*

ナル者ニ相当ル而シテ入表群島中外離島西端ヨリ八十三海里トス故ニ台湾ノ東北端ヲ去ル大凡百海里余東沙島ヲ東ニ去ル大凡二百十四海里余ナルヘ

シ其 シアユシ *Jia u su* ヲ以テ久米赤島ニ当テタルハ全ク誤

ニテ久米赤島ハ ラレーロック *Raleigh Rock* ニ当リ一礁ナルノミ ピンナツクル *Pinnacle*

ヲ以テ久場島ニ当タルモ亦誤ニテ「ピンナツクル」ナル語ハ頂ト云フ義ニシテ魚釣群島中六礁ノ最モ屹立セシヲ言フモノナリ依而彼是其誤ヲ正サンニ魚釣

島ハ ホアピンシュ *Hoa pin su* 久場島ハ シアユシ *Jia u su* 久米赤島ハ ラレーロック *Raleigh Rock*

ナルヘシ

余ハ石垣島ヨリ鶏一番ヲ携帯シテ魚釣島ニ放チ以テ将来ノ繁殖否ヲ試ム復他日ノ証ヲ残サント欲スルノミ

久場島 附久米赤島

同日午後二時魚釣島ヲ謝シ久場島ニ向テ進航暫クシテ其沿岸ニ接ス本島ハ魚釣島ノ東北十六海里ヲ隔テアリ先ツ上陸踏査セント欲スレドモ惜ラクハ日ハ西山ニ落ントシ時恰モ東北ノ風ヲ起シ倍ス強大

ナラント素ヨリ港湾ハナシ風ヲ避クルコト能ハス  
随而端艇ヲ下スコトヲ得ス乍遺憾傍觀ニ止ム依テ先  
其形状ヲ言ハンニ山ハ魚釣島ヨリ卑ケレドモ同シク  
巨巖大石ヨリ成立タル島ニシテ禽類樹木モ異ナル  
コトナシト認ラルハナリ然レドモ少ク小ナルヲ以テ周圍  
恐ラク二里ニ滿タサルヘシ是ヨリ帰路久米赤島ヲ見  
ンコトヲ船長ニ約シ進航セシニ風ハ愈ヨ強キヲ加ヘ  
夜ハ暗黒ニシテ終ニ瞭然見ルコト能ハサリシハ甚タ  
遺憾トス然レドモ久米赤島ハ到底洋中ノ一礁ニ過キ  
サレハ農漁業等ヲ営ミ或ハ将来植民等ヲ為スノ念ハ  
無カルヘシ幸ニ自今後先島航海ノ途次穩波ノ節実  
地ノ目撃ヲ期スルニアル耳

以上我沖縄近海ニシテ古來其在ヲ見認テ未タ航海  
ヲ為サス他日植民スヘキヤ否ノ考案ヲ貯テ今日ニ  
及ヒシ島嶼ハ先般踏査ヲ了セシ南北大東島ト共ニ  
五トス故ニ遠略ノ御計画ハ先ツ右ニテ一段落ニ似  
タリト雖ドモ海軍水路局第十七号ノ海図ニ拠レハ宮  
古島ノ南方大凡二十海里ヲ隔テ、イキマ島ト称シ長  
サ凡五海里幅二海里位ニシテ八重山ノ小浜島ニ近キモ  
ノヲ載セテ曰ク「イビ」氏ハ此島ノ探索ニ力ヲ尽セシ  
ガ遂ニ見得サリシト云フトアリ又英国出版ノ日本

台湾間ノ海図ニモ イキマダウトフル  
Ikima(Doubtful) ト記シ以テ其有

無疑ノ間ニ置ケリ而シテ今回八重山島ニ到リ土人  
ノ言フ所ニ拠レハ往昔波照間島ノ一村民挙テ其南  
方ノ一島嶼ニ移転セリト其有無判然セサレドモ今ニ  
之ヲ南波照間島ト称シテ其子孫ノ連綿タル事ヲ信  
シテ疑ハスト云フ以上ノ二島ハ他日御探求可相成可  
然哉ニ奉存候

右今回御内命ニ拠リ魚釣島外二島実地踏査ノ概略  
並ニ見取略図相添謹而奉復命候頓首再拝

明治十八年十一月四日 沖縄県五等属石沢兵吾

沖縄県令西村捨三殿代理

沖縄県大書記官森長義殿

国立公文書館所蔵「沖縄県ト清国福州トノ間ニ散在スル無人島ヘ国標建設ノ件」  
マイクロコマンナンバー 「魚釣嶋外二嶋巡視取調概略」 内務省罫紙

久場島  
魚釣島  
図  
遠望ノ  
ノ地ヨリ  
十五海里  
南西岸  
魚釣島ノ  
〔略図〕